

松本先生の指導「感謝と喜びが免疫力を上げる」を
実行。早期回復された方の手記

「免疫は自分の仕事を全うしようとする完璧な
システム（リウマチ手記）」 野崎公子 69歳

2015年12月4日

2014年9月

私の主治医の膠原病科の先生は、何度目かの診察の後「もう結節ができて、関節の傷みも強い。活動が激しくなっているので、薬を出しましょうね。」と言い、パソコンに投薬を入力されました。私は、「もうそれしか方法はないのか」と観念し、診察室を出ました。しかし3分もたたないうちに、再びドアをノックし、診察室に飛び込んで先生に言いました。「先生！すいません、私、薬飲みません。」と。

穏やかな先生は「これ以上進むと大変だよ。歩けなくなる事もあるからね。」とだけ言われました。私は病院の外に出て、途方に暮れ、空を仰ぎながら神に祈りました。「どうか私に正しい治療法を与えて下さい」と。

ここに至るまでに、顎関節、首、背中、膝、股関節、腰、足首、舌の乾き、ひびわれ。夜中にもズキズキと痛み、目が覚めても寝返りも打てず、まるで痛みの京都錦市場だった。

私は昔から「痛み止め、風邪薬、解熱剤などの薬を飲まない。痛みは我慢すればいつか終わる」と思っていました。テニスに飛び回る元気なおばさんでした。なのにこんな痛みでは……。初めてへこたれてしまった。

家に帰り、I p a dを開き、「リウマチ」について書かれたサイトを探すと「絶対にステロイドを使いません」と赤い字が飛び込んできました。私はその「絶対に」という言葉に熱い心を感じ、引き込まれました。そして「免疫は神や。どんなに抑え込んでも、死ぬまで自分の仕事を貫徹し、全うしようとする完璧なシステムや」という松本先生の声が聞こえてきました。私は「この先生の他に行くところはない」と確信しました。壮大な免疫機構を愛おしく思い、それを大切にしたいと思いました。

2014年12月

主人と二人、神奈川県から松本医院に行き、副院長の診察を受け、色々な事を丁寧に教えていただきました。いただいた薬は、毎回、主人が煎じて飲ませてくれました。松本先生の指導の中には「感謝と喜びが免疫力を上げる」というものがあり、その通り、心身共に従おうと思いました。「喜びに満ちた心は治療薬として良く効き、打ちひしがれた霊は骨を枯らす」これは私が人生の指針にしている聖書の一節です。

毎日少しの日記をつけ、感謝できること、ありがたいこと、うれしいこと、他の人の幸福な出来事をメモし、赤い花丸印を付けました。すると花丸が沢山、花畑のようになりました。「自分はなんと幸福な人間なのだろう。」と深い喜びに満たされました。

2015年3月

眼が痒く、アレルギーがひどくなりました。膀胱炎に2回なりました。その後、気が付くと日に日に痛みが消えていき、手足に力が入るようになってきました。手首、肩にできた結節が、いつの間にか無くなっていました。先生の治療を受けて4か月足らずで、グングン良くなっていきました。

2015年5月

松本先生に再び。先生に「もう痛くありません。テニスの試合にも出られるようになりました！」と申し上げたら、優しいお顔で握手して下さいました。本当に嬉しかったです。

回復には長い時間がかかると覚悟していましたが、驚く程早く回復しました。RFの値は188にまで上がっていたのに、「今に来る」と思っていたリバウンドもありませんでした。先生の理論を熟読し、手記を読んで励まされたおかげだと思えます。松本先生、心から、心から感謝しています。

	12/17	5/29
血沈	18	10
CRP	0.25	0.06
MMP-3	55.7	